



【本号のトピックス】

第26回学術大会表彰者の紹介／委員会だより(ガイドライン委員会)／
歯科口腔先進医療開発センターの開設／学会だより

第 26 回学術大会 各表彰者紹介

日本老年歯科医学会第26回学術大会にて、下記の先生方が表彰を受けられました。各先生より今後の抱負をいただきました。

第26回
学術大会

優秀奨励論文賞(ライオンアワード)

原 豪志先生(東京医科歯科大学)

この度は優秀奨励論文賞(ライオンアワード)をいただき、誠にありがとうございました。本論文を作成するにあたり、多くの先生方にご指導、ご協力をいただきましたので、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本論文では、在宅、介護施設で療養している胃瘻患者の心身・身体機能と摂食状況を調査し、嚥下内視鏡検査を行うことで、多数の胃瘻患者が少量でも経口摂取を行える可能性があることを報告しました。胃瘻を造設後、維持期において経時的な嚥下機能評価と摂食・嚥下リハビリテーションが重要であると考えます。近年、胃瘻に関わる問題が取沙汰されています。本論文を通じて「胃瘻だから食べることができない」ではなく、「胃瘻があっても食べることができる、もしくは胃瘻があるから安全に食べることができる」ことが認知されることを切に願っています。今後も、高齢者医療に貢献できるよう臨床・研究に励みたいと思います。

第26回
学術大会

優秀奨励論文賞(ライオンアワード)

村田尚道先生(岡山大学)

この度は、このような素晴らしい賞を賜り、大変光栄に感じております。本研究において、多くの情報とご助言・ご指導をいただいた当院脳神経内科の先生方、

病院スタッフの皆様に深謝申し上げます。

本研究は、筋萎縮性側索硬化症(ALS)に出現する摂食嚥下障害を予測することを目的に、疾患の重症度と摂食嚥下障害の出現頻度を検討しました。ALSの症状のうち、球症状出現時には嚥下障害についての定期的な評価と対応を早期から行い、安全な経口摂取を維持することが重要と考えられました。本研究結果が、ALS患者の誤嚥や窒息のリスクを予見するための一助となれば幸いです。

今回の受賞を励みに、今後も多職種連携を図りながらチーム医療の重要性を発信できればと考えております。最後になりますが、本研究にご参加・ご協力いただいた多くの方々に厚く御礼申し上げます。

第26回
学術大会

優秀口演賞

大井 孝先生(東北大学)

優秀口演賞に選出いただき、大変嬉しく思っております。

本研究では地域高齢者を8年間にわたり追跡し、ベースライン時の最大咬合力の低値が要介護に関わる他の因子で補正してもなお、有意に要介護認定と関連することを明らかにしました。これは咬合力低下が要介護の独立した予測因子あるいは危険因子である可能性を示唆するとともに、咬合力維持の介護予防への寄与を期待させる結果です。

このところ、必ずしも咀嚼機能を反映しないとの見解から、機能指標としての咬合力はその存在感を失いつつありました。しかしながら今回の研究で、咬合力が高齢者の虚弱を予測する簡便かつ有用な指標となる

可能性を示すことができました。そしてその可能性の追求は今後の我々の教室の大きな課題のひとつです。

新たな課題と次への励みを得た、そんなありがたいこの度の受賞でした。評価していただいた審査員の先生方、教室の同僚や諸先輩のサポート、そして何より研究にご協力下さった住民の方々に心より感謝申し上げます。

第26回
学術大会

優秀口演賞

若杉葉子先生(東京医科歯科大学)

今回の発表は、摂食嚥下障害患者に対する、嚥下機能を踏まえた口腔機能評価法の確立を目指したものでした。被験食に用いた歯触りのよい煎餅は、咀嚼により粉砕される必要がある一方で、唾液と混和されやすいため、口腔機能が良好であれば咽頭へはペースト状になって送られてくることが特徴です。咀嚼が不要な食物を摂取している患者が、どの程度煎餅を食べることができるのかと思いながらデータをとっていましたが、私の想像以上に食べられる方が多いという結果になりました。口腔機能の重要性、歯科医師が嚥下障害を診ることの意義を示す一要素になればと思い、今後も研究を続けていく所存です。要介護高齢者の「食」に少しでも彩りを添えられるように、今後も歯科医師

として精進いたします。どうもありがとうございました。

第26回
学術大会

優秀ポスター賞

堀部耕広先生(東京歯科大学)

このたびは第26回学術大会優秀ポスター賞を授与していただき、身に余る光栄と感激しております。発表にあたって、今回の研究のデータとなった2014年度板橋区お達者健診に携わった多くの諸先生方にご指導をいただきました。関係各位に心から感謝申し上げます。

本研究は、地域在住後期高齢者の栄養状態の低下と咀嚼機能、嚥下機能低下との関連を主観的、客観的評価から検討したものです。その結果、男性において栄養状態の低下への舌の巧緻性の関与が示唆されました。舌の巧緻性の低下を早期発見することで、栄養状態の低下を予防し、舌の機能訓練によって栄養状態の低下を遅らせることができる可能性があります。しかし、女性では咀嚼機能と嚥下機能の各因子と栄養状態との間に関連がみられませんでした。まだ不明な点が多く、更なる検討が必要です。これからも老年歯科医学に寄与する研究ができるよう、日々精進していく所存です。

委員会だより

ガイドライン委員会

委員長 市川哲雄

本委員会は、老年歯科医療に関する診療ガイドラインをエビデンスをもとに作成する委員会ですが、それ以外にも本学会の抱えている種々の問題に対する指針作成も所掌しております。

今期は急遽、櫻井理事長から「認知症患者の歯科的対応および歯科治療のあり方」についてまとめるように指示があり、3人の特任委員に入っていただき、その方を中心に上記標題の論文をまとめ、ホームページおよび「老年歯科医学」に掲載しました(QRコード参照)。認知症は大きな社会問題になりつつあり、本学会の果たす役割は極めて大きいものがあります。本委員会でもまとめたものはガイドラインというより、認知症に関する学会の立場、行動目標を定めたようなものです。今後この論文内容に従って、学会活動が活発に行われることを期待しております。是非ご一読お願いいたします。

さらに、認知症に関する臨床上の疑問(クリニカルクエスチョン, CQ)や問題提起を、学会代議員および日本歯科医師会会員を対象に収集し、現在まで、300人の方

のCQ、意見が集まっております。これからこのCQ、意見を整理し、その結果を来年の第27回学術大会で発表するとともに、エビデンスを収集しCQに対する指針、ガイドライン作成に取り組みたいと考えております。

あわせて、本委員会発足時に設定した課題である、口腔乾燥症(ドライマウス、唾液分泌低下)、摂食(咀嚼・味覚など)・嚥下機能低下など、注目のオーラルフレイル関係のガイドラインも整備を進めていければと考えております。

本委員会の構成員は、市川哲雄(委員長)、服部佳功(副委員長)、中島純子、古屋純一、田村文誉、北川昇、堀一浩、原哲也、吉川峰加、西恭宏、平野浩彦(特任委員)、渡邊裕(特任委員)、枝広あや子(特任委員)、永尾寛(幹事)です。今後とも、本委員会に対してご協力よろしくお願いいたします。



歯科口腔先進医療開発センターの開設

角 保徳

国立長寿医療研究センター 歯科口腔先進医療開発センター

平成 16 年 3 月、6 番目のナショナルセンターとして国立長寿医療センターが愛知県に開設されました。その後のセンター内での歯科口腔分野の研究活動が評価され、平成 23 年 1 月 1 日、厚生労働省関連施設では初めての歯科口腔関連の研究センターが、歯科口腔先進医療開発センターとして開設され、毎月の会議に加え、定期的にセミナーが開催されています。歯科口腔先進医療開発センターは、①再生歯科医療研究部、②歯科口腔先端診療開発部、③歯科口腔医療基盤開発部の 3 部で構成されています。

我が国の貿易赤字が常態化している中、その改善は急務です。他の国よりもいち早く超高齢社会を迎えたことを武器に、高齢者歯科の研究者は今後高齢化が予想される東アジア各国に輸出できるような医療機器や医療サービスの開発に力を入れるべきではないでしょうか。私が管轄している歯科口腔先端診療開発部では、「歯科口腔先進医療開発センター」の名の通り、より付加価値が高いと考えられる製品やシステム開発を目指す Creative Research に力を入れ、産官共同で以下のような種々の開発研究を行っております。

1. 歯科用 OCT 画像診断機器の開発：CT、MRI の 10 倍以上の解像度をもち、X 線を使用しない安全な新規画像診断技術として日本発、世界初の歯科用 OCT 画像診断機器の実用化を目指しており、現在、医薬品医療機器総合機構に相談中です（図 1）。

2. 可食性フィルムを用いた歯科麻酔用の Drug Delivery System 開発：医薬品医療機器総合機構に相談済みで、長期保存試験終了後製品化の予定です。

3. 紫外線 LED 口腔治療装置の開発：ノーベル賞受賞の天野 浩教授が開発した紫外線ダイオードを用いた紫外線 LED 口腔治療装置は試作機が完成し、基礎実験を行っております（図 2）。

4. 口腔ケア専用ジェル「お口を洗うジェル」の発売：口腔ケア中の誤嚥を予防するための『水を使わない口腔ケア』として、この 7 月に発売しました。



図 1



図 2

5. 義歯安定剤の開発：ドライマウス用の新たなコンセプトとして開発中です。

6. 口腔ケア後の化粧（整容）療法の開発：高齢女性の QOL 向上を目指した口腔ケア後の化粧（整容）療法を開発中です。

当センターのミッションのひとつである政策提言として、高齢者歯科の現状の問題提起に加え、10 年後、20 年後の高齢者歯科医療を展望し、在宅歯科医療、口腔ケア、口腔管理を通して高齢者医療に歯科が参入できるよう提言を行い、日本の歯科医療の発展への方策を考え、講演活動を行っています。その内容を今年の「歯界展望」の新年号の巻頭の新春提言「高齢者歯科医療の確立を一起超高齢社会におけるわが国の歯科医療発展への方策」（歯界展望 125:9-15, 2015）および日本歯科衛生学会雑誌に「超高齢社会の到来と歯科医療—歯科衛生士の役割の変化—」（日衛学誌 10:25-33, 2015）を書きました。

今後もナショナルセンターのミッションに則って、研究開発、情報発信、政策提言を通じて歯科界の活性化のために努力していく所存です。今後の歯科界のため、新たな開発に向けて共同研究に参加したいと思われる先生方は、ご連絡いただけましたら幸いです。

今までも多くの日本老年歯科医学会会員の先生方のご協力をいただきました。書面をお借りしまして深謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

学 会 た よ り

平成28年度 第27回学術大会のご案内

テーマ：口腔から超高齢社会の明るい未来を切り開く
—口腔が果たす役割の再確認と啓発—

会 期：平成 28 年 6 月 18 日（土）、19 日（日）社員総会・学術大会

場 所：アスティとくしま

演題募集：

平成 27 年 12 月 1 日（火）～平成 28 年 2 月 8 日（月）正午
特別講演：「摂食嚥下の機能と障害（仮題）」

日本摂食嚥下リハビリテーション学会理事長

川崎医療福祉大学 学長 椿原彰夫 先生

教育講演：「高齢者の栄養（仮題）」

徳島大学名誉教授 中屋 豊 先生

特別企画：「高齢者が生き生き生活するために（仮題）」

株式会社 いろどり取締役

徳島大学客員教授 横石知二 先生

シンポジウム 1：「口腔機能と全身機能低下、フレイルとの関係を考える」

シンポジウム 2：「認知症高齢者の意思決定支援に関するエビデンスを考える」

ミニシンポジウム「老年歯科を支えるのは若手会員だ！」
(企画募集中)

学会誌またはホームページの応募方法をご確認の上、奮ってご応募ください。

衛生士シンポジウム、委員会シンポジウム、公募若手ミニシンポジウム

課題口演：課題1「フレイル、介護予防と口腔機能」

課題2「各ステージ(急性期、回復期、維持期等)の口腔管理」

認定医審査ポスター、摂食機能療法専門歯科医師審査ポスター

支部セミナーのご案内

下記セミナーが本会共催として開催予定となっています。詳細は学会HPをご確認下さい。

〈病院歯科介護研究会 第18回総会・学術講演会〉

日 時：11月1日(日) 9:40～16:00

場 所：岡山国際交流センター 8F イベントホール(岡山)

〈金沢市歯科医師会学術講演会〉

日 時：11月8日(日) 10:00～15:00

場 所：金沢市駅西福祉健康センター 3F 駅西健康ホール「すこやか」(石川)

〈平成26年度第10回富山県歯科医師会高齢者歯科医学セミナー〉

日 時：11月29日(日) 10:00～12:30

場 所：一般社団法人富山県歯科医師会(富山)

〈日本口腔看護研究会 第1回岡山地区セミナー〉

日 時：11月29日(日) 9:10～15:40

場 所：オルガホール(岡山)

摂食機能療法専門歯科医師 認定を目指す方へ 平成27年度認定申請および指定研修のご案内

申請資格および認定までのスケジュール等の詳細は学会ホームページでご確認ください。

申請受付期限：平成27年11月30日(月・消印有効)

申請書類：学会ホームページよりダウンロード

指定研修：*本年度申請者は受講が必須となります。

日 時：平成28年2月11日(祝・木)

場 所：鶴見大学会館

内 容：1) 総論、2) 摂食嚥下機能の解剖・生理学、3) 摂食嚥下機能の診察、4) 摂食嚥下障害の原因と病態、5) 摂食嚥下障害の評価と診断、6) 摂食嚥下障害への対応、7) 確認テスト

費 用：申請料 30,000円(申請時)



『老年歯科医学用語辞典』(第2版)の刊行

(平成28年1月発刊予定)

本会会員へは1冊ずつ寄贈とし、各位の知識と技術の向上に役立てて頂くとともに、本会の学術的発展につながることを目指しております。

寄贈にあたっては、平成27年12月31日時点で、『平成27年度年会費までの会費を完納した会員』『新規入会した会員』

を寄贈対象といたします。

入会手続きおよび年会費納入状況につきましては、学会事務局までお問い合わせください。

「老年歯科医学 教育基準」について

「老年歯科医学 教育基準」が編纂されました。学会ホームページにて閲覧できますので、ご活用ください。『老年歯科医学』第30巻3号にも掲載予定です。

新規専門医のご紹介

可知直剛、赤松那保、河越邦子、久松徳子

西山留美子、中川量晴、小林健一郎

(以上敬称略、2014年12月11日付)



編集後記

News Letter 第21号をお届けします。本号では、日本老年歯科医学会第26回学術大会の各賞受賞者の声が掲載されています。横浜のあの超満員で熱気溢れる大会を思い出していただき、是非ご一読ください。

早いもので広報・研修委員会の末席に加えさせていただき、河相委員長のご指導の下、1年が過ぎました。News Letter は会員の皆様にホットで有意義な情報をお届けしたいと思っています。是非、本誌やホームページに対する忌憚のないご意見、身近な情報等をお寄せいただきたくお願い申し上げます。(北川 昇)



発行人 櫻井 薫

編 集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341